

## 令和8年度学校経営計画表

### 1 学校の現況

学校番号	特1	学校名	県立盲学校										学校長名	大澤 宏規				
副校長名	*				教頭名	高橋 弘明					事務長名	柳橋 孝栄						
教職員数	教諭	49	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	2	実習助手	5	寄宿舍指導員	14	事務職員	4	技術職員等	16	計	95
幼児・児童・生徒数	部	1年(3歳児)		2年(4歳児)		3年(5歳児)		4年		5年		6年		小計		合計	合計学級数	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	幼稚部	0	0	0	0	0	0							0	0	0	0	
	小学部	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	5	2	7	5	
	中学部	2	2	2	0	1	0							5	2	7	4	
	高等部	0	0	4	1	1	1							5	2	7	4	
	専攻科	2	2	2	1	1	1							5	4	9	5	
															20	10	30	18

### 2 スローガン(全教職員が共有すべき構えは何か)

「問いの探求 ～ 皆が問い とともに問う 学びの場へ」

### 3 目指す学校(どのような学校にしたいのか)

「学びがい」に充ち 「頼りがい」があり 「生きがい」を見い出す 学校

### 4 目指す幼児児童生徒(どのような幼児児童生徒になってほしいのか)

<校訓>	<和敬>	<明達>	<剛健>
目指す幼児児童像	友だちや仲間の良さを知り	自らすすんで楽しく学び	粘り強く頑張る子
目指す生徒像	同志と共に高めあい	未来のなりたい姿に向け学び	心身たくましい生徒

## 5 現状分析と課題(現状に対してどのように改善するか)

項目	現状分析	課題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員、寄宿舎指導員、事務職員の業務内容や職責の違い、共有価値の不在により、縦割りので協働風土に欠ける。</li> <li>・継続したコンプライアンス研修の継続で大きな不祥事はないが、ヒヤリハット等細かな事案は発生している。</li> <li>・ICT活用による業務改善と、視覚障害当事者の教職員の立場にたった既存方法継続の両立の按排に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校教職員の共通意識を高めるスローガンの共有化(教育、療育、事務三位一体で、子供のために協働する組織)</li> <li>・学校目標達成の基盤である教職員の資質の明示と徹底(グランドデザイン中に3つの基盤を明示しHP等で公開)</li> <li>・伝統と革新のバランスによる業務改善の励行(アナログとデジタル両方の良さを生かした働き方の改善努力)</li> </ul>
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間で目指す幼児児童生徒の統一観点が示されず、系統的発展的な育成の道筋が見えづらい。</li> <li>・教授型授業の脱却を目論んだ学校研究の成果をうけ、更に高次なテーマのもと実践力を向上させる必要がある。</li> <li>・コロナ前後以降に異動してきた教職員が半数を超え、組織だった研修のみでは専門性確保の限界が見える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す子供像を校訓と連動し、系統的に設定し周知(学校運営協議会での熟議をすすめ未来志向で再定義)</li> <li>・新しい学力観に迫る授業実践のため発問力向上に重点(「どのように」学ぶかを可能にする教職員の問いの探求)</li> <li>・盲教育の専門性をOJTで継承する持続可能な教育実践(「名人は隣にいる」として相互参観、授業協力風土の定着)</li> </ul>

## 6 中期的目標(令和7年～9年の3年間で実現したいことは何か)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「学びがい」の充実・・・個に応じた個別最適な学びの実現を目指した、指導の個別化と学習の個性化の両立</li> <li>2 「頼りがい」の確保・・・的確な危機管理による安心の担保と、高い専門性に基づく効果的な援助や伴走支援の充実</li> <li>3 「生きがい」の推進・・・本人や家族等が豊かでより良く生きられる共生風土の涵養につながる取り組みの充実</li> </ol>
---

## 7 本年度の重点目標(中期的目標を観点に、何を具体的に、どの組織が担うのか)

重点項目	重点目標	主となり推進する組織
1 「学びがい」の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「解くから問う学び」への転換を支える、授業構想力と実践力の向上</li> <li>② 教科指導の専門性向上と下支えとなる、自立活動の指導の充実</li> <li>③ 情報技術の進化や時勢の変化に応じた、情報リテラシーの育成</li> <li>④ 学校運営協議会との連携、協働による、多様な学びの機会の創出</li> </ol>	教務部 学習指導部 教務部 学習指導部 教務部 ICT係 校務DX委 学校運営協議会(作業部会)
2 「頼りがい」の確保	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 健康的で安心・安全な学習、および生活環境の整備と確保</li> <li>② 視覚障害に係る専門性を生かした、センター的機能の発揮</li> <li>③ 家庭との連携を支えとした寄宿舎生活、および食の指導の充実</li> <li>④ 視覚障害に係る多様なニーズに応える、学校事務の適正化</li> </ol>	保健安全部 視覚障害教育支援センター 舎務部 給食 事務部
3 「生きがい」の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 道徳的実践力や自己指導能力の向上を図る、生徒支援の充実</li> <li>② 個々の得意さや自信を伸ばし自己実現を図る、進路指導の充実</li> <li>③ 本人や家族のウェルビーイングを意識した、PTA活動の推進</li> <li>④ 生涯の趣味を得、仲間を見出せるスポーツ・文化的活動の推進</li> </ol>	生徒支援部 進路指導部 渉外部 部活動 生徒支援部

<全教職員共通の意識基盤>

○社会人としての良識      ○公立学校教職員としての使命感      ○高いコンプライアンス意識